

(注) 国の「審査の手引き」該当箇所  
2010 年 12 月 20 日「発電用原子炉施設の耐震安全性に関する安全審査の手引き」

9 頁（下線は引用者）

### Ⅲ．敷地周辺の地質・地質構造等の調査

敷地周辺（敷地を含む。以下同じ）。

#### 1．3 耐震設計上考慮する活断層の認定

（1）耐震設計上考慮する活断層の認定については、調査結果の精度や信頼性を考慮した安全側の判断を行うこと。・・・。

（2）後期更新世以降の累積的な地殻変動が否定できず、適切な地殻変動モデルによっても、断層運動が原因であることが否定できない場合には、これらの原因となる耐震設計上考慮する活断層を適切に想定すること。

（同上 19 頁）

### Ⅴ．建物・構築物の地盤の支持性能の評価

建物・構築物が設置される地盤は、想定される地震力及び地震発生に伴う断層変位に対して十分な支持性能をもつ必要がある。

建物・構築物の地盤の支持性能の評価においては、次に示す各事項の内容を満足していなければならない。ただし、耐震設計上考慮する活断層の露頭が確認された場合、その直上に耐震設計上の重要度分類Sクラスの建物・構築物を設置することは想定していないことから、本章に規定する事項については適用しない。

（解説）

上記ただし書については、耐震設計上の重要度分類Sクラスの建物・構築物の真下に耐震設計上考慮する活断層の露頭が確認される場合、その活断層の将来の活動によって地盤の支持性能に重大な影響を与えるような断層変位が地表にも生じる可能性を否定できないことから、そのような場所における当該建物・構築物の設置は想定していないという趣旨である。なお、地震を発生させる断層（主断層）と構造的に関係する副断層についても、上記ただし書を適用する。